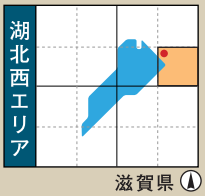
名勝
国指定

大通寺含山軒および蘭亭庭園

長浜市元浜町　昭和9年12月28日指定



大通寺は、「長浜御坊」「ごぼうさん」と湖北の人達に親しまれ、今も篤い信仰を集めています。この寺に残る含山軒、蘭亭の二つの名園は、数多くの寺宝と共に、訪れる人達を往時の世界に誘ってくれます。

当時のできごと	
1652年	若衆歌舞伎を禁止する
1772年	田沼意次老中となる
1791年	銭湯の男女混浴を禁止する

大通寺について

大通寺は、真宗大谷派の別院で、山号を無礙智山（むげちさん）といい、一般には「長浜御坊」と呼ばれ親しまれています。東本願寺の教如が、坂田、浅井、伊香３郡の門徒のため、旧長浜城内に道場を開いたことに始まり、承応元年（1652）現在地に移り、大通寺と称しました。境内には東本願寺から移築したと伝えられる本堂と大広間の巨大な建物が建ち、その背後には含山軒、蘭亭の客殿が付随します。

江戸時代には、彦根藩井伊家との関係が特に深く、同家より寄進された什器類が多数伝わり、桃山時代から江戸時代初期にかけての文化財の宝庫となっています。

含山軒庭園

含山軒は、主客を迎える客殿で、5代目の住職横超院真応上人（1721～1791）の時代に整備され、庭もこの時に完成したと考えられます。庭は、狩野山楽や山雪の障壁画のある書院の東に面する、枯山水です。伊吹山を借景とすることから含山軒の名が付けられました。左手奥の築山上に枯滝石組があり、その左手には大きな不動石が立ち景となっています。枯滝の背後にはマツ、ツバキ、カシなどの高木が左右に分けて植え込まれ、木々の間から伊吹山を望めるようにしています。手前の平地は海に見立てたもので、亀石と鶴石が対になって配されています。



含山軒庭園　晴れれば高木の間に伊吹山が見える

蘭亭庭園

蘭亭庭園も、含山軒庭園と同じ時に整備されたと考えられます。丸山応挙作の蘭亭曲水宴の障壁画が描かれていることから、この客殿を蘭亭と呼ぶようになりました。庭は蘭亭書院の南庭で、左手奥に水落石を中心とした枯滝を配し、この庭の景としています。こじんまりとした庭であるにもかかわらず、大きな石を用い、豪華な印象を与えます。枯流には太鼓橋が架けられ、庭に変化を与えています。



蘭亭庭園



大通寺の門前

大通寺には、この他に、長浜市指定の名勝である「大通寺学問所庭園」も残っています。



蘭亭庭園

関連する文化財

大通寺本堂・広間（重文）	江戸時代前期の大規模な仏堂。改築の手が加えられている
大通寺含山軒および蘭亭（重文）	大通寺の内向きの建物。含山軒は、伊吹山を借景とした庭から、蘭亭は蘭亭曲水宴の障壁画から採られた
県名勝総持寺庭園（長浜市）	学習シートNo.095

もっと深く知りたい

長浜城歴史博物館	☎0749-63-4611	長浜市公園町10-10
長浜市教育委員会	☎0749-64-0395	長浜市小堀町32

大通寺含山軒および蘭亭庭園へのアクセス
ＪＲ北陸本線　長浜駅下車
北陸自動車道　長浜インター



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔日本庭園史体系〕社会思想社　〔滋賀県の庭園１～３〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月